

授業科目： 精神看護学特論★		2 単位	30 時間	履修時期 1 年次後期
【科目目標】				
1. 精神科看護の歴史的変遷と看護を学ぶ。 2. 精神科看護の目的、対象、役割、機能を理解する。 3. 精神科看護を学習するにあたり、人間関係について重要性、また患者との発展過程について学ぶ。 4. 精神科におけるコミュニケーション方法について学ぶ。				
内容		心のケアと精神の歴史的背景		講師名： 松原 成行 看護師
回数	講義内容			学習方法
1	精神看護で学ぶこと 心のケア			講義
2	精神障碍の体験と精神看護			講義
3	精神の健康とは 精神障碍の捉え方			講義
4	ストレスと健康の危機 コーピング			講義
5	回復を支える力 レジリエンス			講義
6	社会の中の精神障碍			講義
7	日本における精神医学 精神医療の流れ			講義
8	精神医療と法制度			講義
内容		精神機能と理論		講師名： 浦川 芳輝 看護師
回数	講義内容			学習方法
1	第3章 人間の心のはたらきとパーソナリティ 人間の心の諸活動 1)意識と機能 2)認知 3)知覚 4)記憶			

授業科目:精神看護学援助論Ⅰ★		講師名:松原 成行 看護師	1 単位 30 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 1. ケアの原則にはどのようなものがあり、患者と話しをするときに具体的にどのように注意すべきかを理解する。 2. 精神障害者の看護の接近方法や援助方法について理解する。 3. 各精神症状における看護の実際を学習し、ケアの手だてと方向性を理解する。 4. 精神科領域における隔離・拘束の目的、意義、実際、方法を学習し、隔離・拘束時の患者のケアを学ぶ。			
回数	講義内容		学習方法
1	オリエンテーション ケアの前提 ケアの原則 お互いの境界を守る。		講義
2	パーソナルスペースを守る。 秘密の取り扱い 時間の枠組み		講義
3	拒薬の看護		講義
4	拒絶はかかわりを求めるサイン 強迫神経症患者の看護		講義
5	モニターや鍵の必要性を吟味する。		講義
6	隔離・拘束について		講義
7	暴力時の看護		講義
8	不安にある患者の看護		講義
9	精神科の治療と身体ケア 水中毒		講義
10	横紋筋融解症 人格障害の患者の特徴		講義
11	緊急事態に対処する。		講義
12	自殺時の看護		講義
13	無断離院について		講義
14	回復を助ける。 統合失調症患者の看護 /精神科で使用する薬物と副作用		講義
15	終講試験		
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院			
【参考書】 その他資料			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 適宜小テスト・筆記試験・出席参加状況・授業態度など			

授業科目:精神看護学援助論Ⅱ(看護過程)★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生後期
【科目目標】 1. 精神障害者へのアプローチ方法や自立・回復に向けての援助の在り方を理解する。 2. 慢性期にある統合失調症患者の看護展開、アセスメントを行い、看護過程の応用知識、看護援助の計画、実践できる能力を身につける。 3. PPによる看護過程を個人で展開し、精神科看護の総括を行う。 4. フィジカル・メンタル・ソーシャル面でのアセスメント能力をPPにより養う。		
内容	精神看護の実際	講師名:浦川 芳輝 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	11章「身体をケアする」 A 精神科における身体ケア B身体にあらわれる心の痛み C精神科の治療と身体ケア	講義
2	11章「身体をケアする」 A 精神科における身体ケア B身体にあらわれる心の痛み C精神科の治療と身体ケア	講義
3	12章 サバイバーとしての患者とそのケア A 受け入れがたい行動を示す患者 B 心的外傷への着目 C 回復への道	講義
4	13章 地域における精神保健と精神看護 A 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える。 B 地域で生活するための原則 C 生活を支えるための社会資源・サービス	講義
5	13章 地域における精神保健と精神看護 D 地域での看護の実際 E 学校における精神保健と精神看護	講義
6	13章 地域における精神保健と精神看護 F 職場における精神保健と精神看護 G 災害と精神看護	講義
7	終章 A 看護師の不安と防衛 B 感情労働としての看護 C 看護師の感情ワーク	講義
8	15章 リエゾン精神看護 A 身体疾患をもつ患者の看護 B リエゾン精神看護とその活動 C リエゾナーズの活動の実際 D 看護における光と影 E 感情の代償と社会 F レジリエンスを高める	講義
9	第11章～終章 まとめ	講義
10	終講試験	
内容	看護過程	講師名:松原 成行 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	オリエンテーション 慢性期の統合失調症患者の看護展開 事前学習データベース作成	演習
2	個人ワーク アセスメント作成	演習
3	個人ワーク アセスメント・関連図作成	演習
4	個人ワーク 関連図・プロブレムリスト・看護計画作成	演習
5	個人ワーク プロブレムリスト・看護計画作成 最終提出	演習
【評価方法】 出席参加状況・演習態度・最終提出物など		
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院		
【参考書】		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 筆記試験:精神看護の実際(100点)		

授業科目：成人看護学特論★		講師名：宮崎 悦子 看護師	2 単位	30 時間	履修時期 1年次後期
【科目目標】					
1. 成人期にある対象の身体的・心理・社会的特徴と発達課題を学ぶ。 2. 成人期にある対象の健康の保持・増進、疾病の予防に向けた保健対策と看護援助を学ぶ。 3. 成人期にある対象の健康レベルに応じた看護の役割を方法について学ぶ。 4. 成人看護の基礎となる理論の概要を学ぶ。					
回数	講義内容				学習方法
1	成人看護学の概念				講義
2	成人看護学の対象の理解 成人期における家族				講義
3	↓				講義 GW
4	成人の生活と健康				GW
5	成人保健の動向				講義
6	生活習慣に関連する健康障害と予防及び対策				講義
7	職業に関連する健康障害と予防及び対策				講義
8	生活ストレスに関連する健康障害及び対策				講義
9	危機状態に対する看護及びコーピング				講義
10	↓				講義
11	慢性期における看護 セルフマネジメント				講義
12	自己効力 エンパワメント				講義
13	自己効力 エンパワメント事例展開				講義・GW
14	成人教育理論				講義
15	まとめ				講義
【教科書】					
成人看護学 成人看護学概論 南江堂					
【参考書】					
国民衛生の動向					
【使用予定視聴覚機材】					
PC、プロジェクター					
【評価方法】					
筆記試験					

授業科目:成人看護学援助論Ⅰ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生前期	
【科目目標】 代表的疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療について学び自己学習の方法を身につける。			
内容	呼吸障害のある対象の看護	講師名:真辺 恵子(演習:満田 幸士)	看護師
回数	講義内容		学習方法
1	復習:呼吸のメカニズム、呼吸障害の病態生理とアセスメント 呼吸障害のある対象の理解 疾患の経過と看護(急性期、回復期、慢性期)		講義
2	症状に関する情報とアセスメント ・気胸、胸水、咳嗽、喀痰 ・検査・治療・処置に関するアセスメント ・呼吸機能検査、動脈血ガス分析、気管支鏡検査 ・吸入療法、酸素療法		講義
3	看護活動の実際 ・呼吸法、排痰、体位ドレナージ法 ・胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、ドレーン管理 ・パルスオキシメーター		講義
4	慢性閉塞性肺疾患のある対象の看護 病態理解、患者についての情報理解 ・対象の特性と精神活動に関する情報とアセスメント ・生活活動に関する情報とアセスメント		講義
5	看護問題の明確化		講義
6	アセスメントⅠ		講義
7	↓ アセスメントⅡ、看護目標と看護計画		講義
8	校内演習:酸素療法、吸引		演習(実習室)
【単元の評価方法】 レポート課題(50点)＋筆記試験(60点)			
内容	循環器障害のある対象の看護	講師名:宝塚市立病院	看護師
回数	講義内容		学習方法
1	循環器医療の動向と疾患の特徴を踏まえた看護		講義
2	狭心症患者の看護		講義
3	急性心筋梗塞患者の看護		講義
4	心不全患者の看護		講義
5	その他の疾患の患者の看護・心臓リハビリテーション		講義
6	応用Ⅰ(心不全患者の看護、症例から学ぶ)		講義
7			GW
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院			
【参考書】			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 [呼吸器障害(110点)＋筆記試験:循環器障害(50点)]÷1.6			

授業科目：成人看護学援助論Ⅱ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生後期
【科目目標】1. 周手術期の患者の特徴をとらえ、必要な看護について思考する。 2. 手術侵襲による生体反応を解剖生理の知識を活用して理解する。 3. 術後合併症を理解し、必要な観察やケアについて思考する。 4. 手術による機能の喪失・ボディイメージの変容を体験する対象への関わりについて思考する。 5. 消化器系に障害のある患者の事例をもとに周手術期の看護過程を展開する。		
内容	手術前・後の看護	講師名：加納 里美 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	手術療法 麻酔・手術侵襲による生体反応	講義
2	周手術期各期の特徴と看護 術前患者の特徴と看護	講義
3 4	術後の看護目標とアセスメントの視点 手術直後～術後2日目の看護(観察の視点と判断・ケア) 1)意識レベルの確認 2)呼吸のアセスメントと呼吸器合併症 3)循環のアセスメントと循環器合併症・サードスペース・ドレーン 4)体温のアセスメントとシバリング・吸収熱 術後腹部のアセスメント 1)腹部の観察 2)腹部ドレーン 3)疼痛のアセスメント	講義
5	術後合併症 1)縫合不全 2)感染 3)吻合部狭窄 4)イレウス	講義・GW
6	*全体関連図発表と意見交換 *アセスⅡについて	GW
7	回復過程の対象理解と看護 1)胃切除術を受けた患者(小胃症候群、吻合部狭窄、ダンピング症候群) 2)大腸切除術を受けた患者(排泄コントロール不良、術後イレウス) *アセスⅡ・看護計画の発表と意見交換	講義・GW
8 9	周手術期の看護実践 (術前オリエンテーション、術前処置、術後ベッド作成と環境調整、帰室時の観察、第一歩行) 回復過程のアセスメント(事例より)	校内演習
【単元の評価方法】 レポート課題(50点)＋筆記試験(60点)		
内容	手術中の看護	講師名：尾田 尚子 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	手術とチーム医療 手術を受ける患者の安全	講義
2	手術室における看護の展開―術前の看護― 麻酔導入時の看護 術中看護の要点	講義
3	術中看護の要点 各診療科手術の特徴 手術室退室時の看護	講義
内容	創傷処置と看護	講師名：高石 明子 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	皮膚の解剖 皮膚の再生と瘢痕治療 創傷治癒過程 創傷ケア 褥そうケア	講義
2	褥瘡リスクアセスメント 褥瘡予防 褥瘡評価	講義
3	ストマケア スキンケア 演習 テープの貼り方・剥がし方 創洗浄	講義・演習
【教科書】 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版		
【参考書】 系統看護学講座 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 〔手術全・後(110点)＋筆記試験：手術中(25点)＋創傷処置(25点)]÷1.6		

授業科目:成人看護学援助論Ⅲ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 機能障害のある回復期～慢性期にある対象理解と看護を学ぶ。		
内容	脳血管障害のある対象の看護	講師名:岩本 佳奈子 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割 脳のしくみと働き、脳の機能とはたらき	講義
2	脳の機能とはたらき、脳の血管系、脳の保護機能、脳脊髄循環 意識障害のある患者の看護	講義
3	意識障害のある患者の看護、脳神経疾患の症状とその病態生理	講義
4	脳神経疾患の症状とその看護	講義
5	疾患と看護:脳卒中	講義
6	疾患と看護:外傷、脳腫瘍	講義
7	脳神経疾患の看護に必要な看護技術	演習
内容	運動器障害のある対象の看護	講師名:島田 亜子 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	1. 運動障害とは	講義・TBL
2	2. 運動障害のある対象の看護 1)看護の役割 2)主な症状に対する看護 3)経過に応じた看護	講義・TBL
3	3. 主な疾患の看護 4. 事例の患者の看護 看護過程の思考	講義・TBL
4		講義・TBL
5		講義・TBL
6	5. 障害受容 6. セルフケア	講義・TBL
7 8	運動器障害のある対象の看護の実際 看護計画の実践	演習
【単元の評価方法】 レポート課題(50点)+筆記試験(60点)		
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院		
【参考書】		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 [運動器(110点)+筆記試験:脳血管障害(50点)]÷1.6		

授業科目:成人看護学援助論Ⅳ★		1 単位 45 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 回復・慢性疾患を有する対象およびセルフマネジメントの必要な対象の理解と看護を学ぶ。		
内容	血液造血器障害のある対象の看護	講師名:小川 亜弓 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	血液造血器に障害のある対象の特徴	講義
2	主要症状に対する看護	講義
3	造血器腫瘍の症状、検査、治療、看護 DIC	講義
4	がん化学療法とその看護	講義
5	抗がん剤の副作用対策	講義
6	輸血療法 造血幹細胞移植	講義
7	急性骨髄性白血病患者の看護	講義・GW
内容	腎臓に障害のある対象の看護	講師名:遠藤 美世子 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	腎臓の解剖・働き 主な腎疾患 腎不全とは ネフローゼ症候群 慢性腎臓病	講義
2	慢性腎臓病の患者の看護 食事指導の詳細 ステージに応じた患者の特性	講義
3	慢性腎臓病stage5 末期腎不全とは 腎代替療法の種類 腹膜透析 血液透析	講義
内容	泌尿器に障害のある対象の看護	講師名:鈴木 麻希 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	泌尿器に障害のある対象の看護	講義
2	検査を受ける患者の看護	講義
3	下部尿路症状 尿失禁の看護 膀胱癌の患者の看護(事例)	講義・GW
4	膀胱全摘、回腸導管増設術後の患者の看護	講義
5	導尿・尿道カテーテル留置の実際	演習
内容	内分泌・代謝障害のある対象の看護	講師名:塚本 由利子 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	1. 慢性期にある患者の看護 2. 内分泌の基礎と内分泌障害のある患者の看護	講義
2	3. 糖尿病による代謝障害のある対象の看護 1)身体的特徴に関連するもの:病態、診断、検査、症状、合併症、治療	講義
3	4. 看護過程 1)アセスメントの視点 アセスメントⅠ～関連図～問題リスト～アセスメントⅡ	講義・GW
4	2)統合関連図 ～問題リスト～アセスメントⅡ	講義・GW
5	3)看護問題 アセスメントⅡ～看護計画	講義・GW
6	4)看護計画 具体策	講義・GW
7	血糖コントロールを支援するための看護技術(演習)	講義・演習
【単元の評価方法】 レポート課題(50点)+筆記試験(50点)		
【参考書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 [内分泌代謝(100点)+筆記試験:血液(50点)+泌尿器(25点)+腎(25点)]÷2		

授業科目：成人看護学援助論Ⅴ★		1 単位 45 時間 履修時期 2年生後期	
【科目目標】 がん疾患をもつ対象および終末期における対象の理解と看護を学ぶ。			
内容	がん看護	講師：宝塚市立病院 看護師	
回数	講義内容	学習方法	
1	がん統計、がん対策基本計画、がんサバイバーシップについて	講義	
2	がんのメカニズム、集学的治療について	講義	
3	診断時からの緩和ケア、遺伝性腫瘍、臨床試験について	講義	
4	手術療法と術後の看護	講義	
5	薬物療法の流れと薬物療法中の看護	講義	
6	放射線治療と放射線療法中の看護	講義	
7	倫理的問題、意思決定支援、人生会議	講義 演習	
8	外来看護、がん患者の相談支援、療養の場の調整	講義	
内容	緩和ケア	講師名：日吉 理恵 看護師	
回数	講義内容	学習方法	
1	全人的苦痛	講義	
2	緩和ケア概論 緩和ケアにおけるチームアプローチ	講義・GW	
3	緩和ケアの基盤となるケア 生活 意思決定 家族 喪失 スピリチュアリティ	講義・GW	
4	喪失・悲嘆・死別のケア 家族へのケア	講義・GW	
5	症状マネジメント スピリチュアルケア	講義・GW	
内容	終末期看護	講師名：日吉 理恵 看護師	
回数	講義内容	学習方法	
1	症状マネジメント(呼吸困難・倦怠感・せん妄・不安・抑うつ) 不安・抑うつのある患者のロールプレイ エンドオブライフケア	講義	
2	症状緩和技術：緩和ケアにおけるアロマセラピー アロマの効能・療法としてのアロマの効果、メカニズム、禁忌など アロマブレンドオイル(グレープフルーツとユーカリ)を用いてハンドマッサージ	講義・演習	
3	臨死期のケア(家族へのケアの配慮、鎮静について) 「看取りの場面の対応」事例検討	講義・GW	
4	エンゼルケア	講義	
5	エンゼルケア エンゼルメイクの実践	演習	
内容	苦痛のある対象の看護	講師名：宮崎 悦子 看護師	
回数	講義内容	学習方法	
1	終末期におけるがん患者の苦痛について	講義	
2	終末期におけるがん患者の事例展開	講義、GW	
3			
4	がん患者への看護実践について(ロールプレイングを通しての気づき)	ロールプレイング GW	
【単元の評価方法】 レポート課題(50点)			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 [苦痛(50点)＋筆記試験：がん看護(50点)＋緩和ケア(50点)＋終末期看護(50点)]÷2			

授業科目：老年看護学特論★		講師名：真辺恵子 看護師	2 単位 30 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 高齢者の身体的、心理的、社会的変化と特徴を理解し、高齢者看護の機能と役割を理解する。また、老人保健の意義及び動向と社会福祉システムを理解し、老人保健活動と看護の役割を理解する。			
回数	講義内容	学習方法	
1	老年看護学とは、老いのイメージ	講義	
2	高齢者の理解、時代背景	講義・DVD	
3	↓	講義	
4	高齢者看護の特性と役割	講義	
5	↓ 何が不自由で何を援助するか	講義・高齢者体験	
6	老人保健の意義、高齢社会の現状と問題	講義	
7	↓ 高齢者のQOLと自立、高齢者をとりまく倫理的問題	講義	
8	高齢者医療・保健・福祉の動向と対策	講義・DVD	
9	↓	講義	
10	↓	GW・演習	
11	↓	講義	
12	老人保健活動と看護の役割	GW・演習	
13	老人保健活動における看護理論の活用	講義	
14	老年看護学のまとめ	講義	
15	終講試験		
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院			
【参考書】			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター、DVD			
【評価方法】 筆記試験(100点)および授業態度、提出レポート内容により総合的に判断します。			

授業科目: 老年看護学援助論 I ★		1 単位 15 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 ライフステージとしての老年期にある対象を社会的存在として理解する。高齢者の身体的、心理的発達段階的、社会的特長と看護の役割を理解する。		
内容	老化と健康障害 I	講師名: 安部 万里 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	加齢による変化の特徴 認知症の病態・症状の理解、診断・治療	講義
2	認知症の原因疾患に対する各論 認知症の予防	講義
内容	老化と健康障害 II	講師名: 土橋 智晴 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	「摂食・嚥下の正常メカニズムと加齢に伴う変調」 摂食・嚥下のメカニズムについて 加齢に伴う摂食・嚥下機能の低下について 誤嚥について 誤嚥性肺炎について 摂食・嚥下リハビリテーションについて スクリーニングテストについて	講義
内容	健康障害を持つ高齢者の看護	講師名: 非常勤講師 看護師
回数	講義内容	学習方法
1	薬物療法を受ける高齢者と家族の看護	講義
2	手術療法を受ける高齢者と家族の看護	講義
3	手術療法を受ける高齢者と家族の看護 検査を受ける高齢者と家族の看護	講義
4	入院・退院時における高齢者の看護	講義
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
【参考書】		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 筆記試験: 老化と健康障害 I (30点) + 老化と健康障害 II (20点) + 高齢者の看護 (50点)		

授業科目: 老年看護学援助論Ⅱ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生後期	
【科目目標】 健康障害や認知症から生活機能が低下した高齢者及び家族に対して適切な看護を学ぶ。			
内容	認知症のある高齢者の看護	講師名: 安部 万里 看護師	
回数	講義内容		学習方法
1	加齢に伴う高齢者の特徴の新しい概念 生活機能 認知症と転倒との関係性		講義
2	うつ病の症状とケア せん妄(認知症との違い・治療とケア)		講義
3	認知症ケアの歴史 認知症の現状 認知症のケア アセスメント		講義
4	認知症患者に特有のコミュニケーションとは ユマニチュード		講義
5	認知症の人にとっての環境の意味と捉え方		講義・GW
6	身体拘束の現状		講義
内容	日常生活の援助	講師名: 若生 隆代 看護師	
回数	講義内容		学習方法
1	高齢者と生活リズム 睡眠障害 リズムを整える看護		講義
2	食事・食生活 食欲不振のある高齢者の看護 摂食・嚥下障害のある高齢者の看護		講義
3	食事・食生活 脱水症状をおこしやすい因子 脱水症状のある高齢者のケア		講義
4	転倒予防 高齢者の転倒の要因、背景 影響 予防のためのケア		講義
5	コミュニケーション 高齢期のコミュニケーションに生ずる問題 高齢者とのコミュニケーション方法		講義
6	排泄障害 便秘 高齢者の便秘の特徴、日常生活の工夫 尿失禁 高齢者の尿失禁の特徴、生活に及ぼす影響、ケア		講義
内容	看護過程	講師名: 真辺 恵子 看護師	
回数	講義内容		学習方法
1	高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方(目標志向型思考への転換)		講義
2	事例展開の実際: アセスメントⅠ(宿題の発表と補足)		講義・GW
3	事例展開の実際: アセスメントⅡ(宿題の発表と補足)、看護計画		講義
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
【参考書】			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 筆記試験: 認知症(50点)+日常生活(50点)			

授業科目：小児看護学特論★	講師名：島田 亜子 看護師 非常勤講師 保健師	2 単位 45 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 1. 子ども観の変遷を理解し、小児看護の役割を考えることができる。 2. 小児各期における成長・発達を理解し、各発達段階に応じた子どもと家族への援助の方法が理解できる。 3. 現代社会における子どもを取り巻く環境と社会制度が理解できる。 4. 子どもを一人の人権を持った対象と捉え、尊重する関わり方を考えることができる。		
回数	講義内容	学習方法
1	I 小児看護の概念と理論 1. 子どもとは	講義
2	2. 小児看護の歴史と意義 3. 子どもをとりまく社会環境と課題	講義
3	4. 子どもの権利	講義
4	5. 理論	講義
5	保育所実習オリエンテーション	講義
6	II 子どもの成長・発達と看護 1. 成長・発達の原則 2. 乳幼児期①	講義
7	II 子どもの成長・発達と看護 3. 乳幼児期②	講義
8	保育所実習施設オリエンテーション	講義
9～14	保育所実習(3日間)	講義
15～16	保育所実習まとめ・発表	GW
17	II 子どもの成長・発達と看護 4. 学童期・思春期	講義
18～19	小児保健	講義 小西先生
20	III 小児看護と倫理 1. 移植 2. 児童虐待	講義
21	III 小児看護と倫理 3. インフォームドアセント	講義
22	4. プレパレーション	GW
23	発表・まとめ	講義
【教科書】 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版		
【参考書】 子ども白書2015 著者：日本子どもを守る会 出版社：本の泉社 世界子供白書 著者：ユニセフ 出版社：(財)日本ユニセフ協会 看護のための人間発達学 著者：舟島なをみ 出版社：医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 一年一組先生あのね 著者：鹿島和夫 出版社：理論社		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 筆記試験：小児看護学特論・島田(90点)＋小児保健(10点)		

授業科目：小児看護学援助論Ⅰ★		講師名：古賀 千穂 医師	1 単位 15 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 小児期に多い疾患の特徴を理解し、適切な看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。			
回数	講義内容		学習方法
1	内分泌／代謝		講義
2	感染症		講義
3	新生児		講義
4	免疫／アレルギー		講義
5	先天異常／染色体／神経		講義
6	腎／泌尿器／血液／腫瘍		講義
7	循環器		講義
8	終講試験		
【教科書】 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版			
【参考書】			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 筆記試験			

授業科目：小児看護学援助論Ⅱ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生後期	
【科目目標】 子どもの成長発達段階をふまえ健康上の課題をアセスメントし、子どもとその家族への援助を学ぶ。 1. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。 2. 子どもの成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する。			
内容	子どもの看護	講師名：浦田 恵美 畑野 明子 看護師	
回数	講義内容		学習方法
1	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 心身障害のある子どもと家族への看護		講義
2	急性期にある子どもと家族への看護① －痙攣、呼吸困難－		講義
3	急性期にある子どもと家族への看護② －発熱、脱水の子どもへの看護－		講義
4	慢性期にある子どもと家族への看護 川崎病の子どもと家族への看護		講義
5	集中治療を受ける子どもと家族への看護 点滴治療を受ける子どもへの看護		講義・GW
6	手術・検査を受ける子どもと家族への看護		講義・演習
7 8	子どもへの援助の実際		演習 GW
内容	外来看護	講師名：泉 雅子 看護師	
回数	講義内容		学習方法
1	1. 外来における子どもと家族への看護 3. 隔離について 5. 救急外来における小児看護		講義
2	2. 小児科外来の環境 4・育児支援について		講義
	予防接種 検査や処置を受ける子どもと家族への対応 小児科看護に関する国家試験過去問題		講義
内容	看護過程	講師名：島田 亜子 看護師	
回数	講義内容		学習方法
1	子どもの特徴、気管支喘息の子どもの看護		講義
2	子どもの看護、事例をもとに情報生理、統合、看護計画		講義・GW
3	看護の実際(看護援助論Nsとコラボレーション)		シミュレーション
4	看護の実際(看護援助論Nsとコラボレーション)		シミュレーション
5	看護の実際、援助の工夫(看護援助論Nsとコラボレーション)		グループ発表
【単元の評価方法】 パフォーマンス評価(10点)			
【教科書】 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版			
【参考書】			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 看護過程(10点)+筆記試験：子どもの看護(80点)+外来看護(10点)			

授業科目:母性看護学特論★	講師名: 大本 奈美 非常勤講師 両名とも助産師	2 単位 30 時間 履修時期 2年生前期
【科目目標】 1. 母性看護を取り巻く社会情勢を捉え、次世代の健康を守る意義を理解する。 2. 母性看護の対象への基本的アプローチについて理解する。 3. 母性看護の特徴や健康問題を学び、看護の役割を理解する。		
回数	講義内容	学習方法
1	母性看護とは、母性とは	講義
2	母子関係と家族の発達、セクシュアリティ	講義
3	リプロダクティブヘルツ/ライツ	講義
4	母性看護における倫理問題	講義・DVD
5	母性看護における倫理問題	講義
6	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義
7	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状(法律)	講義
8	ライフサイクルにおける女性の健康と看護	講義
9	女性のライフサイクルステージ各期における看護とリプロダクティブヘルスケア	GW
10	地域における母性看護の実際	講義(南田)
11	地域における母性看護の実際	講義(南田)
12	女性のライフサイクルステージ各期における看護とリプロダクティブヘルスケア	GW
13	女性のライフサイクルステージ各期における看護とリプロダクティブヘルスケア	GW発表
14	母性看護学特論のまとめ いのちとは	講義・母子手帳持参
15	終講試験	
【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院		
【参考書】 講義で適宜提示		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 筆記試験		

授業科目:母性看護学援助論Ⅰ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生前期	
【科目目標】 1. 妊娠・分娩・産褥経過の生理的な経過を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・褥婦に起こる問題を理解し各々の看護について理解する。 3. 妊婦の身体的、心理・社会的変化を理解し、母子、家族を含めた看護について理解する。			
内容	妊娠・分娩・産褥の生理	講師名:平野 剛 医師	
回数	講義内容		学習方法
1	女性性器の解剖(外性器、内性器の構造および機能) 妊産婦死亡率、周産期死亡率、新生児死亡率		講義
2	妊娠の生理(1受精、着床、2母体の生理的変化)		講義
3	妊娠の生理(3胎児の発育、胎児循環)		講義
4	妊娠の病理(流産、異所性妊娠、胎状奇胎、血液型不適合妊娠)		講義
5	妊娠の病理(早産、前期破水、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離、前置胎盤)		講義
6	妊娠の病理(妊娠糖尿病、感染症:風疹、麻疹、水痘、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、トキソプラズマ)		講義
7	妊娠の病理(感染症:クラミジア、CMV、B型肝炎、C型肝炎、梅毒、インフルエンザ、ATL、伝染性紅斑、GBS、GAS、リステリア感染症、心筋炎)		講義
8	分娩の生理(分娩の3要素:娩出力、産道、娩出物)		講義
9	分娩の病理(分娩の3要素の異常):1娩出力の異常:微弱陣痛、過強陣痛、2産道の異常:狭骨盤、CPD、3娩出物の異常:回旋以上、骨盤位、横位、臍帯下垂・脱出)		講義
10	分娩の病理(臍帯および胎盤異常、分娩時母体損傷:子宮破裂、子宮頸管裂傷、会陰裂傷、膣外陰血腫、弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症) 産褥の生理(子宮復古、授乳)と病理(産褥熱、周産期うつ病、乳腺炎)		講義
【単元の評価方法】 筆記試験 70点(小テスト、授業態度含む。)			
内容	妊娠期における看護	講師名:山本 紀子 助産師	
回数	講義内容		学習方法
1	妊娠初期の看護		講義
2	妊娠中期の看護		講義
3	妊娠末期の看護		講義
4	ハイリスク妊娠と看護		講義
【教科書】 ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング ニューベル・ヒロカワ			
【参考書】 臨床助産師必携 生命と文化をふまえた支援 医学書院 ルヴァ・ルーゼン母性論 母性の主体的体験 医学書院 参加型両親学級ツール 日総研			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 筆記試験:妊娠・分娩・産褥の生理(70点)+妊娠期における看護(30点)			

授業科目:母性看護学援助論Ⅱ★		1 単位 30 時間 履修時期 2年生後期	
【科目目標】 1. 産婦・褥婦の身体的、心理・社会的変化を理解し、母子、家族を含めた看護について理解する。 2. 新生児の生理的变化と正常経過を理解し、その看護について理解する。 3. 母性看護学の看護過程について理解する。			
内容		分娩・産褥期の看護	
		講師名:非常勤講師 助産師	
回数	講義内容		学習方法
1	分娩期産婦の観察とアセスメント		講義
2	産婦のアセスメントと看護		講義
3	分娩室での看護(分娩第4期を含む。)産褥期の看護目標		講義
4	産褥期の観察とアセスメント		講義
5	褥婦の看護		講義
6	沐浴実習		演習
7	沐浴実習 授乳のし方 授乳介助の方法		演習
内容		新生児の看護	
		講師名:竹野 美智子 助産師	
回数	講義内容		学習方法
1	正常な新生児の基礎的理解		講義
2	正常な新生児の看護ケア		講義
内容		看護過程	
		講師名:大本 奈美 助産師	
回数	講義内容		学習方法
1	看護過程の展開について・褥婦の事例を用いてアセスメントⅠを展開		講義
2	グループワークで、アセスメントⅠと計画		GW
3	計画にもとづいて、グループで指導案を作成		講義・GW
4	指導案をもとに、模擬演習		GW
5	各グループの発表		発表
【単元の評価方法】 グループとしての取り組み姿勢			
【教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング ニューベル・ヒロカワ			
【参考書】 新生児の観察と看護技術, ペリネイタルケア 2013, Vol11.2			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 筆記試験:分娩・産褥期における看護(70点)+新生児の看護(30点) 出席状況、レポートも含まれます。			

授業科目： 精神看護学実習★		講師名： 松原 成行 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 3年生
【実習目的】 精神に障害を持つ対象の特徴を理解し、対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。					
実習目標		実習内容			
Ⅰ 病棟実習					
1 精神に障害のある対象の特徴が理解できる。		1) 精神障害のある対象の特徴的な症状 2) 行われている治療の内容 ・薬物療法・精神療法・生活療法 3) 対象の生活歴(生育歴)：発達段階、発症の時期、入院歴と経過 4) 対象の反応の観察(表情、行動、言動等) 5) 生活の場としての環境の理解(入院形態)			
2 精神障害によって生じる日常生活の問題を把握し、自立のための援助ができる。		1) 日常生活行動の観察と問題の把握 (1)食事、排泄、睡眠、清潔、衣生活、私物管理、環境の整備 (2)金銭管理、時間管理(院内・院外外出) (3)対人関係(他患者、医療関係者) 2) 日常生活自立のための援助(生活指導) 3) 対象の安全を守るための援助 (1)病棟の構造上の特徴と鍵の取り扱い(開放、療養、閉鎖、隔離室) (2)離院、自殺、自傷・他傷行為、火災、危険物の取り扱い (3)転倒・転落、拘束、誤嚥 4) 治療への援助 (1)薬物療法の副作用の観察と服薬管理 (2)作業療法やレクリエーション療法への参加			
3 対象との関わりでプロセスレコードを通して、効果的なコミュニケーション技術を身につける。		1) 対象の反応(言動・行動)の意味を考える。 (1)対象を一人の人間として関心をもつ。 (2)非言語的コミュニケーション技術の活用 (3)時間・距離・タイミングの取り方 2) 受容的態度で接する。 (1)対象の意思、人格の尊重 (2)対象のありのままを受容する。 3) 効果的コミュニケーション技術の活用			
4 社会復帰に必要な資源を活用するための調整的な役割が理解できる。		1) 継続看護と関連部門・職種との連携の必要性の理解 2) 社会資源の種類と利用方法の理解 (1)住む場所:施設入所支援、グループホーム (2)活動する場所:デイケア、小規模作業所、就労支援事業所(A型・B型) (3)生活支援・相談:訪問看護、地域活動支援センター、ホームヘルプ (4)医療:外来通院、健康診断、作業療法			
5 精神看護を実践するための倫理的な態度を身につける。					
Ⅱ 精神科デイケア実習					
1 精神科デイケアの意義・役割・機能について理解する。		1) 社会資源の中での目的、意義、位置づけ 2) 役割、活動内容 携わる職員とそれぞれの役割 3) 連携のとり方 職員間の連携・地域との連携			
2 精神科デイケアの利用者の特徴と背景を理解する。		1) 利用者の日常生活能力 2) 利用者の社会生活能力 生活構築、対人関係能力 3) 利用者の反応・様子 4) 利用者の抱える問題			
3 精神障害者の社会復帰を困難にさせている要因について理解する。		1) 社会的要因 家族の受け入れや協力、経済状況(生活保護・障害者年金)、就業、住居、偏見や差別 2) 身体的要因 服薬継続状況 自己管理状況 3) 心理的要因 社会的、身体的要因からの影響 4) 福祉について 福祉制度、施策とその対策			
事前学習		実習オリエンテーションで説明			
授業時間		実習期間:12日間 実習時間: 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間／日			
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。					

成人看護学実習（6単位 270時間）

【実習目的】 成人期にある対象を理解し、健康段階に応じた看護が実践できる能力を養う。

【実習目標】

1. 成人期にある対象を生活する統合体として理解することができる。
2. 対象の健康障害及び健康段階に応じた看護実践ができるための基礎的能力を養う。
3. 保健・医療・福祉チームの一員としての調整的役割が認識でき、保健医療福祉との協働を通して看護の役割が理解できる。
4. 専門職業人として看護を追及していく姿勢を養い、自己の看護観を形成する。

授業科目：	成人看護学実習Ⅰ★ (回復～慢性期)	講師名	全教員 看護師	2 単位	90 時間	履修時期	2年生後期
【実習目的】 回復～慢性期にある対象の特徴を理解し、セルフマネジメントに向けた援助ができる。							
実習目標		実習内容					
1. 対象を生活する統合体として理解することができる。 1) 回復～慢性期にある対象を、生活者として理解することができる。 2) 対象のレディネス及びセルフマネジメント能力について理解することができる。		(1) 実習の課題を理解し必要となる知識や技術などの学習準備 (2) ライフスタイル、日常生活動作の自立度とその変化についての情報収集・整理 (3) 対象のレディネス及びセルフマネジメント能力の理解 (4) セルフマネジメント能力を高めるための実現可能な目標・行動計画の立案					
2 対象の健康障害及び健康段階に応じた看護が実践できる。 1) 対象のセルフマネジメント能力に応じた日常生活の援助が実践できる。 2) 退院後の生活の再構築や社会復帰に向けて必要な援助が実践できる。 3) 回復～慢性期にある対象を取り巻く人々への支援が理解できる。		(1) 健康障害や治療・今後の生活への思いの傾聴 (2) 看護者としての適切なコミュニケーション (3) セルフマネジメント能力を高めるための援助の実践 (4) エビデンスに基づいた、安全安楽な看護実践 (5) 患者の反応から目標と行動を評価し、行動を習慣化できるような計画の追加・修正					
3 保健・医療・福祉チームの一員としての調整的役割が認識でき、保健医療福祉との協働を通して看護の役割が理解できる。 1) 回復～慢性期にある対象の継続看護の必要性及び、他職種との連携について理解することができる。		(1) 継続看護の必要性の理解 (2) 対象が活用できる社会資源と連携の必要な部署や職種についての理解					
4 専門職業人として看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を形成する。 1) 回復～慢性期にある対象の自己概念や価値観に寄り添うための倫理について考えることができる。		(1) 対象の意志・人格を尊重できる姿勢 (2) 医療チームの一員として協力的な姿勢 (3) 看護を追及する姿勢 (4) 報告・連絡・相談					
事前学習	実習オリエンテーションで説明						
授業時間	実習期間：12日間 実習時間： 8：30～17：00(1時間休憩) 7.5時間／日						
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。							

授業科目： 成人看護学実習Ⅱ★ (慢性～終末期)		講師名： 宮崎 悦子 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 3年生
【実習目的】 慢性～終末期にある対象の特徴を理解し、その人らしく生が全うできるように身体的・心理的・社会的・霊的苦痛の緩和にむけての援助ができる。					
実習目標		実習内容			
Ⅰ 病棟実習					
1 対象を生活する統合体として理解することができる。 1) 慢性～終末期にある対象を生活者として理解することができる。 2) 慢性的な病態の経過、検査、治療過程が生活に及ぼす影響について理解することができる。 3) 全人的苦痛の理解に努めることができる。		(1) 実習の課題を理解し、必要となる知識や技術などの学習準備 (2) 対象とその家族を、身体的・精神的・社会的・霊的側面からの情報集・整理 (3) 疾患の慢性的な経過や検査、治療過程が生活に及ぼす影響についての理解 (4) 対象の苦痛を全人的に捉えている。 (5) 対象とその家族の置かれた状況を踏まえ、実現可能な目標と計画を立案している。			
2 対象の健康障害や健康段階に応じた看護が実践できる。 1) 対象の苦痛の軽減と価値観・人生観を尊重した日常生活援助の援助が実践できる。 2) 慢性～終末期にある対象を取り巻く人々への支援が理解できる。		(1) 対象とその家族の想いを傾聴し、受容的な態度で接する。 (2) 対象に応じた症状マネジメント (3) 対象のQOLを高めるための援助の実践 (4) 対象の価値観を尊重した関わり			
3 保健・医療・福祉チームの一員としての調整的役割が認識でき、保健医療福祉との協働を通して看護の役割が理解できる。 1) 関連部門との必要な調整や他職種との連携が理解できる。		(1) 保健・医療・福祉チームとの調整の必要性の理解 (2) 継続看護の必要性の理解 (3) 福祉制度の活用や社会資源の活用方法の指導			
4 専門職業人として看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を形成する。 1) 死生観及び慢性期～終末期における倫理について考えることができる。		(1) 対象の意志・人格を尊重できる姿勢 (2) 医療チームの一員として協力的な姿勢 (3) 報告・連絡・相談			
Ⅱ 緩和ケア病棟見学実習		1) 緩和ケアの実際 患者の生活環境、病棟概要、1日の生活の流れを把握 看護師と患者のコミュニケーション、援助場面を通して支援方法を学ぶ。 (1) 病棟の概要、特殊性、構造、設備 (2) 患者の1日の生活の流れ (3) 記録(診療、看護) (4) 安全や倫理(事故防止、個人情報等)			
2 その人らしく生が全うできるよう、トータルペインの視点で患者像を捉えた援助を学ぶ。		2) トータルペインの視点から考える。 (1) 身体的苦痛について ① 疼痛 ② 消化器系、呼吸器系 ③ 全身倦怠感 ④ 皮膚の問題 ⑤ 排便コントロール (2) 精神的苦痛について ① 疼痛コントロール ② 精神症状 (3) 社会的苦痛について ① 日常生活を整えるための援助 ② 家族の支援 ③ グリーフケア (4) 霊的苦痛(スピリチュアルペイン)について ① 心理面の援助 ② スピリチュアルケア ③ 日常生活を整えるための援助			
3 緩和ケアにおけるチームアプローチ、退院支援について学ぶ。		1) 多職種との連携 2) 退院(外泊)に向けてのチーム支援 3) カンファレンスへの参加			
事前学習	実習オリエンテーションで説明				
授業時間	実習期間：12日間 実習時間： 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間／日				
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。					

授業科目： 成人看護学実習Ⅲ★ (急性～回復期)		講師名： 加納 里美 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 3年生
【実習目的】					
急性～回復期にある対象の特徴を理解し、生命の維持、健康回復への援助ができる。					
実習目標		実習内容			
1 対象を生活する統合体として理解することができる。 1)急性～回復期にある対象を、生活者として理解することができる。 2)健康障害や治療が対象に及ぼす影響について理解することができる。		(1)成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面からの理解 (2)生活者としての理解 (3)健康障害が身体面・心理面・社会面に及ぼす影響の理解 (4)健康段階が身体面・心理面・社会面に及ぼす影響の理解 (5)治療が対象に及ぼす影響の理解 (6)手術侵襲による生体反応についての理解			
2 対象の健康障害や健康段階に応じた看護が実践できる。 1)術後合併症に対する実践ができる。 2)周手術期における精神的不安への援助ができる。 3)回復期において、退院に向けた実践ができる。		(1)手術前の必要な看護技術の理解と実践 (2)手術後の合併症と予防的ケア (3)手術後の状態観察と異常の早期発見および判断 (4)苦痛・不快感への緩和や安楽への援助 (5)精神的不安の援助 (6)対象の回復状況に応じた適切な指導の実践 (7)対象を取りまく人々への支援の理解			
3 保健・医療・福祉チームの一員としての調整的役割が認識でき、保健医療福祉との協働を通して看護の役割が理解できる。 1)急性～回復期にある対象の継続看護の必要性および、他職種との連携について理解することができる。		1)保健・医療・福祉チームとの調整の必要性の理解 2)継続看護の必要性の理解			
4 専門職業人として看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を形成する。 1)周手術期における倫理について考えることができる。		1)対象の意志・人格を尊重できる姿勢 2)医療チームの一員として協力的な姿勢 3)報告・連絡・相談			
事前学習	実習オリエンテーションで説明				
授業時間	実習期間：12日間 実習時間： 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間／日				
【評価方法】					
評価基準に基づき評価する。					

老年看護学実習(4単位 180時間)

【実習目的】

老年期にある対象の特徴を理解し、老化と健康段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

授業科目： 老年看護学実習Ⅰ★		講師名： 真辺 恵子 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 2年生後期
介護老人福祉施設実習					
実習目標		実習内容			
1.コミュニケーションという手段を通じて介護、養護を必要とする高齢者の特徴が理解できる。		1) 高齢者の環境、生活、生きてきた過程を知る。 2) 高齢者が何を考え、何を望んでいるのかを理解する。 3) どのような背景をもった人が利用しているのかを知る。 4) 認知症のある高齢者を理解しようと努める。 5) 家族との関わりはどのように行われているのかを知る。 6) 加齢による身体的・心理的・社会的変化とその関連性について考える。 7) 加齢に伴う健康上の問題を知る。			
2.日常生活の援助の方法を理解し、日常生活援助を実施する。		1) 施設の沿革について知る。 2) 施設で行われているサービスについて知る。 3) どのような人々が高齢者の日常生活に関わっているのかを知り、他職種の役割と連携の必要性を学ぶ。 4) 看護と介護の役割について考える。			
3.対象に適応されている社会福祉システムを理解し、看護の役割について考えることができる。		1) 施設の沿革について知る。 2) 施設で行われているサービスについて知る。 3) どのような人々が高齢者の日常生活に関わっているのかを知り、他職種の役割と連携の必要性を学ぶ。 4) 看護と介護の役割について考える。			
4.自己の老年観を培う。		1) 実習を通して高齢者の生活、生きがいについて考え、高齢者に対する考えをまとめる。			
事前学習	実習オリエンテーションで説明				
授業時間	実習期間：12日間 実習時間：施設によって異なる(1時間休憩) 7.5時間／日				
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。					

授業科目： 老年看護学実習Ⅱ★		講師名： 真辺 恵子 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 3年生
介護老人保健施設実習					
実習目標		実習内容			
1. 対象の健康障害の程度および援助の必要性を理解し実施する。		1) 利用者の特性(健康障害の種類、程度)・日常生活の自立度について情報収集する。 2) 利用者の思いを言動から推察する。 3) 利用者の生活を観察し、その意味を考える。 4) 利用者のつよみに注目する。			
2. 家庭復帰に向けての援助方法を理解し、日常生活援助を実施する。		1) 個別のケアプランを理解する。 2) 個に応じたりハビリテーションの実際 3) 生活リハビリテーションと残存機能の視点をもって日常生活援助の実際を理解し実施する。 4) レクリエーションや楽しみが高齢者に及ぼす影響を考え実施する。 5) 援助内容が利用者に及ぼす影響を考える。 6) 家族支援の実際を理解する。			
3. 介護老人保健施設における看護の役割を理解し、老人保健・医療・福祉の協働について考えることができる。		1) 施設の沿革及びサービスの内容 2) 施設における看護の役割を理解する。 3) デイケアにおける看護の役割を理解する。 4) 老年看護の全体像を理解し、老人保健・医療・福祉がチームとしてどのように協働していけばよいか考え、看護の役割を認識する。			
4. 対象の生活史を理解し、価値観、自尊心を尊重した行動がとれる。		1) 日常生活の自立に向け、利用者・家族の意思、生活習慣を尊重した看護を実施する。 2) 利用者、家族にとって最善の看護を実践するための看護倫理について考える。 3) 実習を通して自己の老年観や看護観について考え、老年看護を探究する。			
事前学習	実習オリエンテーションで説明				
授業時間	実習期間：12日間 実習時間： 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間／日				
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。					

授業科目： 小児看護学実習★		講師名： 島田亜子 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 3年生
【実習目的】 子どもの特徴を理解し、子どもとその家族に健康段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。					
実習目標		実習内容			
Ⅰ 小児病棟実習 1. 子どもを成長・発達の特徴及び家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。		1) 必要な情報の収集 《アセスメントⅠ》 (1) 受け持ち患児の成長・発達段階の観察と評価 (形態的・機能的・精神運動機能の発達の観察と評価) (2) 生育歴 (3) 家庭環境 (4) キーパーソン (5) 生活習慣の自立の程度 (6) 家族の育児・教育方針 (7) どのような健康段階にあるか (8) 主要症状とその病態生理 (9) 治療内容と子どもの反応 (10) 基本的ニーズの充足状況 (11) 入院前、入院後の生活状況の変化 (12) 子どもの入院に伴う家族の問題 (13) 受け持ち患児、家族の疾患についての理解状況 2) 情報の解釈・分析・統合 構造図を用いて問題抽出過程と各問題間の関係性を思考			
2. 子どもとその家族に対し、成長・発達と健康段階に応じた日常生活の援助の必要性を理解し、実践する。		1) 受け持ち患児の日常生活の援助《日々の実習記録》 成長・発達段階、健康段階に応じた援助 (1) 環境整備 病棟の構造・日課・規則・事故の予防 (2) 食事 (3) 排泄 (4) 睡眠 (5) 清潔・衣生活 (6) 移動・活動 (7) 遊び・学習 (8) 症状の観察 (9) 保健指導（プレパレーション） 2) 受け持ち患児の家族の問題への対応 (1) 家族の不安 (2) 家族の疲労・役割の変化 (3) 保健指導 3) 日々実施した援助の評価と考察			
3. 子どもと家族の関係形成の重要性を理解する。		1) 受け持ち患児とのコミュニケーション (1) 子どもとの言語的・非言語的コミュニケーション (2) 子どもの反応（ことば・表情・態度）の観察 (3) 子ども同士のやり取りの観察 (4) 遊びへの参加 (5) 自己の感情の変化の認識 (6) 自分に対する子どもの反応の変化を把握 (7) 家族の反応の観察 (8) 看護師の対応の観察			
4. 看護チームの一員としての責任を自覚する。		1) 観察・報告の重要性 2) 子どもに対して事故の及ぼす影響 3) チームカンファレンスへの参加			
Ⅱ 小児外来実習 通院治療を受けている子どもとその家族に必要な看護を理解する。		1) 外来を訪れる子どもの症状、疾患の種類・発病からの経過 2) 診察室の特徴（緊張の緩和と感染予防など） 3) 子どもと家族への配慮 治療・処置の説明と同意 4) 子どもの成長・発達への影響 5) 家庭療養における必要な援助と保健指導 6) 継続看護の必要性の理解			
Ⅲ 子ども発達支援センター実習 1. 健康課題を持ちながら地域で生活する子どもと家族の生活状況を理解する。		1) 受け持ちの子どもの観察 2) 子どもと家族の生活を知る。			
2. 療育の現場での実践を通して、子どもの成長・発達を促す援助について考える。		1) 保育・療育場面を通じた子どもの成長発達を促す援助 (1) 保育士の関わり方の観察 (2) 保育・療育場面への参加 (3) 母親の関わり方の観察 (4) 療育環境と安全への配慮			
3. 子どもを個人として尊重して関わる。		1) 保育・療育場面を通じた子どもとの関わり 2) 子どもを個人として尊重して関わることの意味を考察			

実習目標		実習内容	
4. 子ども発達支援センターの機能を理解する。		1)オリエンテーション 福祉制度、施設の概要・沿革、療育方針、今後の課題 2)家族との連携 3)発達障害をもつ子どもとその家族の療育生活における問題についての理解 4)社会福祉制度の理解	
5. 保健・医療・福祉チームの協働の中で、看護の役割を理解する。		1)1～4の目標からの考察	
Ⅳ学校保健室見学実習 1. 学童期・思春期の成長・発達の特徴及び個性を理解する。 2. 学童期・思春期にある子どもと関わりをもつ。 3. 学童期・思春期の健康課題の特徴を理解する。 4. 小・中学校における健康教育と健康管理の実際を知る。		1)オリエンテーション(地域の特徴、各学校の概要など) 2)講話 (1)子どもの健全な心身の成長発達を促すための各学校における方針 (2)健康的側面からみた子どもたちの特徴など 3)健康管理 (1)定期健康診断と事後の処理 (2)健康相談 (3)健康状態の把握 (4) 健康問題のある子どもへの対応の実際 ・慢性疾患、発達遅延など (5)その他 ・環境の整備、事故防止など	
事前学習	実習オリエンテーションで説明		
授業時間	実習期間:15日間 実習時間: 8:30～16:00(1時間休憩) 6.5時間／日		
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。 病棟実習(70点)+子ども発達支援センター実習(25点)+学校保健室見学実習(5点)			

授業科目： 母性看護学実習★	大本奈美 助産師 講師名： 竹野美智子 助産師	2 単位 90 時間 履修時期 3年生
【実習目的】 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。		
実習目標	実習内容	
I 病棟実習 【妊婦の看護】 1 妊婦の妊娠経過・日常生活行動・妊娠に伴う心理的变化、家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。	1) 妊娠経過、ハイリスク因子 (1) 妊婦の健康状態、ハイリスク因子 (2) 妊娠経過 2) 妊婦の日常生活行動 (1) 栄養と食事 (2) 排泄 (3) 活動、休息・睡眠 (4) 清潔、整容 (5) 妊娠による妊婦の日常生活の変化 (6) 妊婦の就労 3) 妊婦の心理状態 (1) 今回の妊娠の受け止め (2) 妊娠に伴う心理的变化 4) 妊娠経過が順調かどうか (1) 妊婦の健康状態 (2) 妊娠に伴う全身の変化 (3) 検査所見 5) 胎児の発育が順調か (1) 胎児の発育状態、健康状態の評価 (2) 検査所見 6) 家族の受け入れ状況、社会的支援 (1) 家族の理解、家族のサポートの有無 (2) 地縁、交友関係	
2 妊婦とその家族に対し、正常に経過するための援助について理解する。	1) 妊娠期の健康課題の援助 (1) 妊娠経過に応じた個別指導 (2) 妊娠経過に応じた集団指導	
【産婦の看護】 1 産婦の分娩経過・日常生活行動・分娩に伴う心理的变化、家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。	1) 分娩経過、ハイリスク因子 (1) 産婦の健康状態、ハイリスク因子 (2) 分娩開始徴候 (3) 分娩経過 2) 産婦の日常生活行動 (1) 食事、水分摂取状況 (2) 排泄 (3) 休息と睡眠(疲労) (4) 清潔 3) 産婦の心理状態 (1) 不安、恐怖 4) 夫や家族の支援 (1) 夫婦間の信頼関係 (2) 夫のこどもに対する受け止め (3) 家族の支援	
2 分娩経過を正常に促すための援助ができる。	1) 産婦の日常生活の調整 2) 産痛緩和 3) セルフケア	
3 生命の尊厳や自己の母性観(父性観)を深める。	1) 産婦(夫)との関わりを通して母性(父性)に対する考え 2) 産婦(夫)との関わりを通して両親に対する感謝の気持ち 3) 分娩見学を通して生命の尊厳	
【褥婦の看護】 1 褥婦の産褥経過・日常生活行動・育児に伴う心理的变化、家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。 2 産褥経過および育児が順調に進むための援助をする。	1) 産褥経過、ハイリスク因子 (1) 褥婦の健康状態、ハイリスク因子 (2) 産褥経過 ・退行性変化 ・進行性変化 2) 褥婦の日常生活行動 (1) 食事 (2) 排泄 (3) 活動 (4) 休息と睡眠 (5) 清潔 (6) 乳房の手当 3) 褥婦の心理状態 (1) 分娩、育児に対する母親の認識 (2) 産褥経過に伴う心理的变化 (3) 不安 4) 褥婦の育児能力 (1) 育児経験 (2) 育児手技 (3) 児の接し方 5) 褥婦の家族・社会環境 (1) 夫のこどもに対する受け止め (2) 夫、家族、社会的支援 1) 出産後の身体回復を促進するための援助 (1) 休息・睡眠 (2) 栄養 2) 子宮復古を促進するための援助 (1) 子宮底部の輪状マッサージ (2) 排泄コントロール (3) 活動 (4) 栄養 3) 母乳栄養を促進するための援助 (1) 母親の母乳栄養に対する考えを尊重した関わり (2) 母乳栄養の利点 (3) 乳房ケア (4) 児の抱き方、乳頭の含ませ方 (5) 乳頭の外し方 (6) 排気の仕方	

実習目標		実習内容	
3 母子に適応される法的保護・諸制度・社会資源について理解する。		1) 出生届 2) 母子健康手帳 3) 産後(出生後)の健診 4) 子育て支援 5) 訪問看護	
4 自己の母性観・父性観を深めることができる。		1) 母子(父子)の関係	
【新生児の看護】 1 新生児の特徴を理解し、観察する。		1) 新生児の観察 (1)呼吸 (2)心拍 (3)体温 (4)排泄 (5)栄養 (6)黄疸 (7)原始反射 (8)成熟徴候 2) 検査所見	
2 新生児の日常生活環境を整えるための日常生活の援助をする。		1) 環境・清潔・栄養・排泄についての援助 2) 感染予防・安全についての援助	
Ⅱ ママズケア(乳房ケア・ベビーマッサージ)見学実習			
継続看護の必要性について理解する。		1) 地域における子育て支援の位置づけ (1)乳房ケア (2)ベビーマッサージ 2) 地域における看護者の役割 3) 継続看護の必要性	
事前学習	実習オリエンテーションで説明		
授業時間	実習期間:12日間 実習時間: 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間／日		
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。 病棟実習(90点)+ママズケア(10点)			